◆交流学習会

# 組織活動と青壮年部の役割

1．目的

近年の水産資源の減少及びそれに伴う経営状態の悪化から漁協組織内における青壮年部活動が縮小しつつある。青壮年部活動が地域に及ぼす意義を考えるため、今回は組織活動が活発に行われている農業の青壮年部活動を担当している専門技術員を講師に招き、組織活動について考え直すことを目的とする。今回は漁協青壮年部巡回移動相談と合わせて開催した。

2．場所及び日程

11/5　知念村漁民研修センター

14：00　組織活動と青壮年部の役割
（営農推進課　本村隆信主任専門技術員）

15：00　漁協青壮年部巡回移動相談
（水産試験場普及センター）

16：00　水産試験場情報提供
（諸見里聡、太田格、加藤美奈子研究員）

3．参加者

・知念村漁協　漁業者　11名
　　職員　　大城盛光
・知念村役場　水産課　島袋朝次、新屋毅
・水産試験場普及センター
　瀬底正武、中村勇次、山田真之、城間一仁
・水産試験場　漁業室　太田格、加藤美奈子
　　増殖室　諸見里聡
・営農推進課　本村隆信

4．内容

組織活動を大きく分けると①仲間づくり②学習活動③社会参加活動の3つに分けられる。組織活動はまず会員自身が楽しめることが重要です。

そのため、①仲間づくりではスポーツ大会や忘新年会などがあります。そして自分たちだけの活動ではなく、多方面の人たちと交流することにより、自分たちの活動への充実感が得られるようになります。直売店や朝市を開くことにより消費者と直接会話をし、消費者が何を望んでいるのかを知ることなどがそれに当たります。これらの交流会を成功させるためには、自主的に、目的をはっきりさせ、関係機関と協力しながら、ＰＲ活動を充実させ、反省会を行いながら1回きりにしないことなどが重要です。

②勉強会を開き、それに基づきプロジェクトを行う。水試の技術の実証などをグループで行うことである。「楽しめる」と「ためになる」をバランスよくプロジェクトを行う必要がある。どちらかに偏ると組織として成立しなくなる。「楽しむ」だけでなく「ためにならない」と継続性が無くなってしまうためである。また、若い内は特に組織内で自分の意見発表を行うことにより、経営者としての意識を持ち、将来のビジョンを持てるようになる。

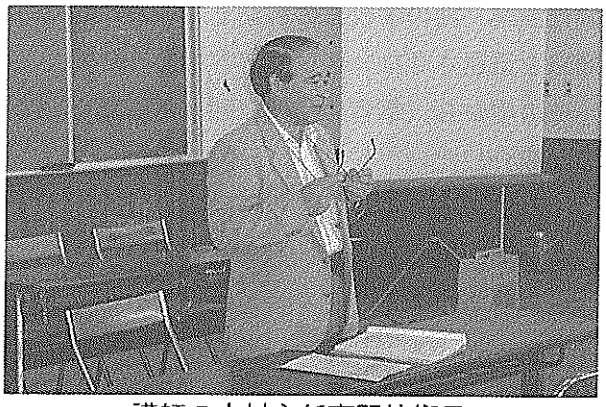
③社会参加活動では水産教室のような労働の大切さや、食品の生産現場を知ってもらうことが将来にわたり意味がある。また地域漁業の振興のための提案と実践や、浜掃除などの奉仕活動は組織としての評価を高めることになる。

組織の成長過程についてであるが、結成初期は方針決定や連帯感を高めるなどリーダーの役割が非常に大きい。成長期においてはリーダーの発言は助言的発言で、一人一人の役割を決めながら活動を行っていく。成熟期にはメンバー全員の活動が主体になる。コミュニケーションをしっかり取ることによりマンネリ化をさけるように注意する。最近では組織活動も転換期を

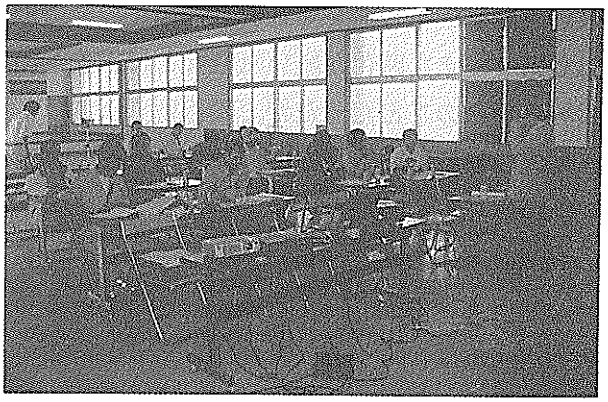
迎えていて全体の活動が難しくなってきている。そこで大きな組織の中に分野ごとの個別の部会を作り活動するようになってきている（モーニング娘。方式）。

組織活動のもたらすものとして①優れた漁業経営者として成長していく②地域や社会のリーダーとして成長していく③全国的、地域的に仲間のネットワークが得られる。これらは個人の活動では得られないものである。

その後農業の青年クラブ（漁協の青壮年部に該当）の活動実績報告がスライドを使って行われた。また伊良部町の生活改善グループの漁村生活改善の取り組みについての報告が行われた。通常廃棄物になるマグロの内蔵を使った加工品を開発し、イベントでの販売を行い、先だって宮古島で行われた全国漁港大会での弁当やおみやげ物として使われた実績があるとのことであった。


講師の本村主任専門技術員

青壮年部巡回移動相談の中で、「会員全体が集まって活動することが難しい」という漁協事務局に対し、本村主任専技からはユニット（部会）を作ることにより集まりやすくなり、活動が活発化できるので、最終的には組織全体が活性化できる。また、交流相手としてはまず同じ漁協内の婦人部との交流をあげられた。その理由として婦人部は加工をすることにより付加価値をつけることができる。これからは製品作り、適正な価格設定、販売場所、販売促進が重要になってくるためである。という二つのアドバイスをいただいた。


巡回移動相談の様子